

M&A専門誌

Mergers & Acquisitions
Research Report

MARR マール

2007 June 6月号

発行人 高橋 豊
Yutaka Takahashi

編集長 川端 久雄
Hisao Kawabata

制作進行 加藤 順子
Junko Kato

表紙写真 十文字 美信
Bishin Jumonji

アート
ディレクション 石崎 路浩
Michihiro Ishizaki

デザイン 斎藤 圭太
Keita Saito

本文写真 福本 敏雄
Toshio Fukumoto

印刷 三松堂印刷株式会社

発行所：株式会社レコフ

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-1-1

麹町ダイヤモンドビル

TEL.03-3221-4942

2007年6月1日発行 通巻152号

雑誌18321-06

定価2,310円 本体2,200円

 RECOF

編集室から

BOOK

『新版 経済思想史』

大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎編者

名古屋大学出版会

2800円(本体)



ヒューム、スミス、マルクスからケインズ、ハイエク、ガルブレイス、センまで経済学に偉大な足跡を残す24人を取り上げて大学生向けに書かれた経済思想史の入門書である。

経済学者は、自分が生きる社会がどうしたらもっと良くなるか、という課題と格闘してきた。そのため、経済社会を認識する概念道具を幾つも考え出している。見えざる手、分業、労働価値、資本、利潤、限界効用価値、均衡、自生的秩序、拮抗力などがそうである。これらは、現代を生きる我々にとって時代と社会を認識するための手がかりになる。

たとえば、価値論における限界分析の手法を身につけておくと、いろいろの場面で応用が利く。ガルブレイスが「限界的供給が最も非弾力的である要素に、支配力は宿る」として現代の大企業の支配者はテクノストラクチャー(企業の知的集団)であるとしたのもそうである。人類の叡智が1冊の本に納まっていて、ある意味では贅沢な本である。

200年余りの間に経済学がどう発展してきたのかも概観できる。人間の労働に価値を見出して生産が繰り返される仕組みを解明した初期の経済学と、限界効用による価値評価を発見して理論を精緻にしていく限界革命以降の経済学に大きく分かれる。

通読して興味を覚えたのは、一貫して相反する二つの流れが続いているということだ。人間の理性によって経済社会を設計し、統御しようとする合理的主義者の考え方と、人知には限りがあって、市場機構の「見えざる手」に任そうという考え方である。

ベンサムは、早くも18世紀に市場経済は、本質的に不均衡の要因をはらむがゆえに賢明な為政者の「巧妙な手」による絶えざる制御が必要と考えた。『共産党宣言』を書き、資本主義の変革を訴えたマルクスや有効需要の原理を打ち出したケインズは、この系譜である。こうした世の中を合理的に作り変えたいという発想はルソーにたどり着くという。

これに対し、経済学の父と言われるスミスは、見えざる手に導かれて、自己の利益を追求することを許す仕組みの方が経済は繁栄するという自由主義の立場に立った。計画経済を標榜する社会主義国家が登場した20世紀、ハイエクは、スミスに依拠しながら、資本主義を擁護し、社会主義打倒に生涯を捧げた。経済計画は、一時的には効率的に見えるが、複雑化した社会では中央集権的に情報を集めることはできず、非効率になる。市場の機能に任せる方がよいことはソ連崩壊で証明された。現代を理解するうえで、こうした流れを、もう一度復習しておくのもいいだろう。

難しい経済理論の紹介だけでは、なかなか読み進める気にならないが、本書の長所は、人物の生涯が語られている点である。さらに随所に先哲の教えが散りばめられている。「勤労、知識、人間性は不可分の連鎖で結ばれている」といったヒュームの言葉もそうである。労働もせず、知識だけで人格を磨こうとしても砂上の楼閣を築くに等しいだろう。

文学作品から得られる感動とは一味ちがう知的感動が得られる。学問には良き導き手が必要だが、本書を手がかりにさらに知識を深めたいという気持ちにさせてくれる。(青)

編集後記

長い間、仕事をしてきたが、必ず時間を持って余すというか、退屈する時期があった。一言でいえば、することがない。端境期である。しかし、会社はちゃんと給料を払ってくれる。贅沢な悩みといえば、悩みであった。

ところが、今の仕事をしてからというもの、息つく暇もない。今年になっても、次から次に前例のないM&Aが起きる。溢れるほどの情報が押し寄せる。読み終えるだけでも大変なのだ。

もう少しゆとりがあって、持続可能な働き方をしたいと思うのだが、日本のM&Aを切り開いた先達は言う。「我々は知らないうちに責務を負わされているのだ。逃げるわけにはいかない」と。自分より年長の人があるのだから、私もひるむわけにはいかない、と自らを励ます。(開)

本誌の記事およびデータの著作権は原則として株式会社レコフに帰属します。いかなる目的であれ当社に無断で本誌記事の複製、引用、転載等を行うことを禁じます。また、本誌記事の情報は、当社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、完全性が保証されているものではありません。当社は本誌記事に起因して被った損害については、その内容如何にかかわらず一切の責任を負いません。乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。マール室(03-3221-4942)までご連絡ください。